



昭和54年から7期26年8カ月余り、園部町長として地方自治の発展に大きく貢献されました。その間、昭和63年6月から平成17年末まで京都府町村会長を務めたほか、



「地方自治の発展に大きく貢献」

旭日中綬章

野中 一二三さん(園部町・78)

全国町村会副会長を2期、旧厚生省や農林水産省をはじめ、全国規模や京都府の各種団体の要職を歴任。南丹市発足に向け、園部町・八木町・日吉町・美山町合併推進協議会長として尽力されました。園部町長在任中は、大学誘致をはじめとした学園都市づくり、「京都新光悦村」を核とした伝統工芸のまちづくり、「幼児の館・すこやか学園」の設置や子宝祝金などの子育て支援策、草の根の国際交流事業、町内全域のCATV網の設置、介護保険制度の円滑な導入や家族介護の充実に向けた取り組み、高齢者の就労対策、都市基盤整備や農林業振興、「資源の館」の設置による資源の再利用に向けた事業など、先駆的なまちづくりを実践されました。

旭日単光章

「地域福祉の向上に貢献」

故・谷 義夫さん(日吉町)

昭和46年4月から3期12年間、日吉町議会議員として地方自治の振興に尽力。特に、社会福祉の推進、交通安全の推進に力を注がれ、その手腕を大いに発揮されました。昭和59年7月から3年間は日吉町農業委員として、また昭和58年10月から18年間は日吉町社会福祉協議会長として、地域住民と町行政などのパイプ役となり、その豊富な見識と指導力で住民の先頭に立って複雑多岐にわたる問題解決などに取り組まれました。ご冥福をお祈りします。

現在の重症心身障害児・者施設「花ノ木医療福祉センター」(亀岡市)の前身である「花明学園」に、昭和47年8月から准看護師として勤務。以来、今日に至るまで37年3カ月の長きにわたり、重度心身障がいのある方々の看護と介護に誠実かつ精力的に取り組まれています。医療・福祉が連携した

章に際し、「ここまで勤続できたのも家族の理解と協力があったからこそ。純粹で懸命に生きる入所者からは、毎日私の方がパワーをもらっています。重い障がいのある方々が安心できる施設・環境の充実は今後の大きな課題であり、私たちの願いでもあります」と話されています。



「献身的な看護と介護に従事」

瑞宝双光章

明田 しげみさん(八木町・60)

療育体制で、幼児から高齢者まで幅広い入所者の健康保持、疾病予防、治療に携わるとともに、一人一人の特性をよく理解し、専門性の高い看護を実践されています。このたびの受